



令和 05 年度		調査		
市道今町田井線（上新田工区）歩道新設（その4）工事		設計書		
工事番号		施工地		
防交第56-A13-4号		見附市 上新田町 地内		
	実施・元		変更	
設計額	円		円	
契約額 (内消費税額)	(円)		(円)	
工事・履行日数	工事日数 日間 又は 完成期限 05 年 11 月 30 日		日間(付与日数 日間) 完成期限 年 月 日	
実施 (元) 設計概要	歩道新設 L=92.0m W=6.0(8.5)m W=3.5m 路床盛土工(歩道部t=50cm) V=150m3 (車道部t=80cm) V=340m3 下層路盤工(歩道部t=15~25cm) A=262m2 (車道部t=12~20cm) A=780m2 自由勾配側溝工(300型) L=75m 集水柵工(500~600型) N=12基		変更 設計概要	

特 記 仕 様 書

【適用範囲】

本工事の施工にあたって受注者は、契約書に基づき、設計図書に従って施工するものとする。また、設計図書のうち仕様書については、本「特記仕様書」及び「新潟県土木工事標準仕様書」（港湾工事にあたっては、「新潟県港湾工事標準仕様書」）を適用するものとする。

○施工条件関係

下記項目、事項のうちレ印欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。
 なお、明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、発注者と協議し、適切な措置を講ずるものとする。

明示項目	施 工 条 件
☑ I 工程関係	☑ 1. 関連する別途発注工事あり ・工事名： 防安交第56-A13-3号市道今町田井線(上新田工区)歩道新設(その3)工事、水道管布設工事、ガスパ布設工事、電柱移転工事 ・予定期間： 令和5年11月末まで
	☐ 2. 施工時期、時間、方法の制限あり ・時 期： ・時 間： ・方 法：
	☐ 3. 関係機関協議による工程条件あり ・協議内容： ・完了予定時期：
	☐ 4. その他
☐ II 用地関係	☐ 1. 工事用地等の未処理部分あり ・処理見込時期： ・区 間：
	☐ 2. 仮設ヤードの指定あり ・場 所： ・期 間：
	☐ 3. その他

明示項目	施 工 条 件
Ⅲ公害対策 関 係	<input type="checkbox"/> 1. 公害防止の制限あり（騒音・振動、排出ガス、粉じん、水質等） ・施工方法： ・作業時間：
	<input type="checkbox"/> 2. 家屋等の調査の必要性あり ・方 法： ・範 囲：
	<input type="checkbox"/> 3. その他
Ⅳ安全対策 関 係	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 交通安全施設等の指定あり ・交通誘導員： 144.0人日 昼間勤務 交代要員有り 交通誘導員は工事区間の起終点に1人づつ配置する。 勤務実績を提出すること。 ・その他施設等：
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 近接作業制限あり（鉄道、ガス、水道、電気、電話等） ・内 容： ガス、水道、下水道 ・工法制限： 各埋設物の管理者と現地立会を行い、埋設位置を確認した上で「地下埋設物確認チェックリスト」を提出すること
	<input type="checkbox"/> 3. 発破作業あり ・保安設備 及び保安要 ・防護工： ・作業時間制限：
	<input type="checkbox"/> 4. 防護施設（落石、雪崩、土砂崩落等） ・内 容：
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他 交通誘導警備員については、警察など関係機関との協議により交通処理方法などの変更が生じた場合や、現地の状況により、これによりがたい場合は、監督員と協議すること。

明示項目	施 工 条 件
<input type="checkbox"/> V工事用道路関係	<input type="checkbox"/> 1. 一般道路を搬入路としての使用制限あり ・搬入経路： ・期 間： ・使用後の処置：
	<input type="checkbox"/> 2. 一般道路の占用 ・期 間： ・規制条件： ・時間制限：
	<input type="checkbox"/> 3. 仮設道路設置 ・工法指定の有無： ・用地関係： ・安全施設： ・工事完了後の 「存置」または「撤去」：
	<input type="checkbox"/> 4. その他
<input type="checkbox"/> VI仮設備関係	<input type="checkbox"/> 1. 仮設備の指定あり
	<input type="checkbox"/> 2. 仮設備の条件指定あり
	<input type="checkbox"/> 3. 仮設構造物の転用，兼用あり ・工 種： ・内 容：
	<input type="checkbox"/> 4. イメージアップあり ・内 容：
	<input type="checkbox"/> 5. その他

明示項目	施 工 条 件
<input checked="" type="checkbox"/> VII 残土・産業廃棄物関係	<input checked="" type="checkbox"/> 別紙「建設副産物特記仕様書」のとおり
<input type="checkbox"/> VIII 工事支障物件等	<input type="checkbox"/> 1. 占用支障物件あり（電気、電話、水道、ガス等） ・内 容： ・移設、撤去、 防護方法等： ・時 期：
	<input type="checkbox"/> 2. 占用物件重複施工あり ・内 容：
	<input type="checkbox"/> 3. その他
<input type="checkbox"/> IX 排水工 (濁水処理含む)	<input type="checkbox"/> 1. 濁水、湧水処理等の特別な対策あり ・内 容：
<input type="checkbox"/> X 薬液注入関係	<input type="checkbox"/> 1. 薬液注入工法あり ・別紙条件明示による
<input type="checkbox"/> XI その他	<input type="checkbox"/> 1. 現場発生材あり ・品 名： ・納入場所：
	<input type="checkbox"/> 2. 支給品及び貸与品あり ・品 名： ・引渡場所：
	<input type="checkbox"/> 3. 品質証明の必要あり ・標準仕様書第1編（章）1-1-1-24による
	<input type="checkbox"/> 4. その他

○指定材料関係

材料名・材料規格については、参考資料で指定している。なお、参考資料の仮設工における数量・材料名・材料規格は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考であるので、指定とならない。

○排出ガス対策型建設機械関係

排出ガス対策型建設機械（第2次基準）を標準としている施工においては、これを積極的に使用し普及促進に努めること。

建設副産物特記仕様書

1. 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再 生 資 材 名	規 格	使 用 箇 所	備 考
アスファルト再生クラッシャーラン	ARC-40 (RC混合)	路盤材	
再生クラッシャーラン	RC-40	基礎材	

2. 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発 注 機 関	工 事 名	発 生 場 所	施 工 会 社 名 ・ 連 絡 先	備 考

3. 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記により積算している。

搬 出 先	改良土プラント	残土処分場	
搬 出 先 地 名			
連 絡 先	—	—	
設 計 運 搬 距 離	2.5 km	5.0 km	
受 入 時 間	—	—	
設 計 受 入 費 用	2,600 円/m ³	2,300 円/m ³	
仮 置 場 所 の 有 無			
備 考	改良土 (ほぐし単価)	ほぐし単価	

建設発生土改良プラントへ土砂を運搬処理する場合、上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

注) 受入先が建設発生土改良プラントの場合、排出先欄には「プラント」と記載し、搬出先名、連絡先の欄は記入しない。

4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記により積算している。

搬 出 する 廃 棄 物 名	コンクリート廃材 (有筋・無筋)	アスファルト廃材	
設 計 運 搬 距 離	3.3 km	3.3 km	
受 入 時 間			
設 計 受 入 費 用	1,900 円/t	1,500 円/t	
備 考			

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5. 舗装版切断時の濁水搬出

工事の施工により発生する舗装版切断濁水は、下記により積算している。

設 計 運 搬 距 離	km	km	km
受 入 時 間			
設 計 受 入 費 用	円	円	円
備 考			

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

6. 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

7. 自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

8. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに発注者に報告し、協議すること。

アスベスト含有建設資材に関する特記仕様書

本工事においては、アスベスト含有建設資材を使用してはならない。

再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン特記仕様書

建設工事に伴い発生する建設廃材を破碎または混合して、製造する再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン（以下「再生クラッシャーラン等」という。）の性状について、次のとおり規定する。

なお、再生クラッシャーランを構造物の基礎材等として使用する場合についてもこの定めによる。

1 材料

1-1

①再生クラッシャーラン（RC-40）

セメントコンクリート廃材から製造した再生骨材および路盤再生骨材（路盤発生材を必要に応じて破碎、分級して製造した骨材）を単独または相互に組み合わせ、必要に応じてこれに補足材を加えて、所要の品質が得られるように調整した材料をいう。

②アスファルト再生クラッシャーラン（ARC-40）

再生クラッシャーラン（RC-40）もしくはクラッシャーラン（C-40）を母材とし、グリズリアンダー材を混合したものをいう。アスファルト再生クラッシャーランには、再生クラッシャーラン（RC-40）を母材とする「RC混合」とクラッシャーラン（C-40）を母材とする「C混合」がある。

1-2

再生クラッシャーラン等は、ゴミ、泥、有機物、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器、レンガ、瓦等を有害量含んではない。

1-3

再生クラッシャーラン等の最大粒径については、最大40mmと定める。

2. 品質

再生クラッシャーラン等の品質規格ならびに品質管理については、新材のクラッシャーランに準じるものとする。

2-1（品質）

路盤材に使用する再生クラッシャーラン等の修正CBR、塑性指数、グリズリアンダー材の混入率は次表を標準とし、舗装の構造設計に用いる等値換算係数（下層路盤）は0.25とする。

材 料	修正CBR	PI (塑性指数)	グリズリアンダー材の混入率
再生クラッシャーラン	30%以上	6以下	—
アスファルト再生クラッシャーラン	40%以上	6以下	質量配合40%以下

【注】

（1）再生クラッシャーラン等に用いるセメントコンクリート再生骨材は、すりへり減量が50%以下でなければならない。試験方法はロサンゼルスすりへり減量試験（粒度は道路用碎石S-13（13～5mm）のもの）とする。

（2）再生クラッシャーラン等の材料として路盤再生骨材もしくは路盤発生材を用いる場合のみPIの規定を適用する。

2-2（粒度範囲）

再生クラッシャーラン等の粒度は〔JIS A 5001〕道路用碎石の規定に準じ、粒度範囲は次表による。

粒度の範囲 (mm)		RC-40 (40～0)	ARC-40 (40～0)
ふるい目 (mm)	53.00	100	100
	37.50	95～100	95～100
	31.50	—	—
	26.50	—	—
	19.00	50～80	50～80
	13.20	—	—
	4.75	15～40	15～40
	2.36	5～25	5～25

【注】粒度は、モルタル粒などを含んだ破碎されたままの見かけの骨材粒度を使用する。

改良土特記仕様書

1. 適用範囲

本仕様書は、建設発生土を改良し盛土する場合に適用する。なお、建設発生土が直接転用可能な場合は、設計変更の対象とする。

2. 改良土の品質

改良土の品質は次表のとおりとする。

試験項目	試験方法	規格値	管理方法(※1)	摘要
最大粒径	JIS A 1204 に準ずる	最大粒径20mm以下 または75mm以下	試験成績表	
一軸圧縮試験	JIS A 1216	100kpa (28日) 以上 200kpa (28日) 以下	試験成績表	
六価クロム 溶出試験	環境庁告示46 号溶出試験	検液1ℓにつき0.05mg 以下	試験成績表	セメント及びセメント 系固化材
土の突固め試験	JIS A 1210		試験成績表	
設計CBR試験	JIS A 1211	CBR20%以上	試験成績表	

※1 プラント混合改良土については、原則として3ヶ月に1回以上の試験を実施するものとし、直前の試験成績表をもって当該工事に使用する改良土の品質を保証するものとする。

3. 保管方法

改良土の保管及び使用に際しては、含水比の変化に十分注意し、シート等で降雨の浸透を防止するとともに、保管場所の周囲に排水溝を設けるなど適切な措置を講じること。

4. 施工管理

路床部・路体部に関わらず、埋戻しの一層仕上厚は20cm以下とする。

施工に際しては地下水等の出水状況や必要条件により適当な工法を選定し、施工基面を出来る限りドライ状態に保つものとする。

5. その他

この特記仕様書に記載のない事項又は疑義のある事項については、監督員と協議するものとする。

追加発注に関する特記仕様書

(競争入札の場合)

競争入札の結果、当該工事と対象工事の請負者が同一となった場合の請負額は、当該工事と対象工事の対象額の合計額により定まる率によって算定した諸経費から、対象工事にかかる諸経費を控除して再計算したものとし、これにより変更契約を行う。

記

当該工事

防交第56-A13-4号 市道今町田井線(上新田工区)歩道新設(その4)

対象工事

防交第56-A13-3号 市道今町田井線(上新田工区)歩道新設(その3)

設計図書における利用コード一覧表

設計図書における本工事費内訳表および施工内訳表などに記載のあるデータコードは下記のとおりとなっています。

※データコード中の“x”は任意の半角英数字（xの数も任意），“n”は任意の半角数値です。

1 単価コード

・単価コードにおいて新潟県土木工事等基礎（公表）単価表に掲載のある単価については、コードが対応しています。（その他以外）

労務単価	Rxxxxxxxxx	RRxxxxxxxx	TRxxxxxxxx					
資材単価	TZxxxxxxxx	Txxxxxxxxx	TTxxxxxxxx	TVJxxxxxxxx	TRxxxxxxxx	TMNxxxxxxxx	TNxxxxxxxx	TZPxxxxxxxx
機械・仮設材の賃料・損料	TLxxxxxxxx	Kxxxxxxxxx	KExxxxxxxx	TMxxxxxxxx	TZUxxxxxxxx	Mxxxxxxxxx	MMxxxxxxxx	
市場単価	TAxxxxxxxx	TBxxxxxxxx	TCxxxxxxxx	TDxxxxxxxx	TGxxxxxxxx	TQxxxxxxxx		
その他	T9999001～T9999099 ※		Fxxxxxxxxx	Wxxxxxxxxx ※	TFJAxxxxxxxx ※	TYxxxxxxxx ※		
東京単価	RR9xxxxxxxx	TZ09xxxxxxxx	TZP9xxxxxxxx	TL09xxxxxxxx	MM09xxxxxxxx	TQ09xxxxxxxx		

その他のものは単価等を個別に設定しており、新潟県土木工事等基礎（公表）単価表から単価を引用している場合があります。

※は同一コードでも異なる単価が入力されている場合があります。詳細は入札資料を参照してください。

2 施工コード

①下表のコードは各積算基準の施工コード一覧表と対応しています。※

積算基準 [1 県版]	Sxxxxxxxxx	SCBSxxxxxxxx
積算基準 [2 調査関係]	SAxxxxxxxx	SBxxxxxxxx
	SCxxxxxxxx	SDxxxxxxxx
積算基準 [3 港湾]	SDHxxxxxxxx	SExxxxxxxx
	SSHxxxxxxxx	
積算基準 [4 下水道]	SWGxxxxxxxx	

②下表のコードは積算基準での表記と異なります。※

積算基準名	設計図書コード	積算基準の表記
積算基準 [1 一般土木] 全国版	SWBxxxxxxxx	WBxxxxxxxx
	SCBxxxxxxxx	CBxxxxxxxx
積算基準 [4 公園緑地]	SWCxxxxxxxx	WCxxxxxxxx
積算基準 [6 機械・電気通信]	SWExxxxxxxx	WExxxxxxxx
積算基準 [5 建設機械損料表]	MMJxxxxxxxx	Kxxxxxxxxx

※①・②記載のパッケージコードについて修正している場合があります。詳細については、6 パッケージコードの修正についてを参照してください。

③下表のコードは個別の案件で設定

名称、単価、単位等を設定	S0900 ※	S0901 ※	SE918 ※	
名称、労務数量等を設定	SA901 ※	SA902 ※	SA910 ※	SC900 ※
全ての歩掛を独自設定	Vxxxxxxxxx			

※同一コードでも異なる歩掛を設定している場合があります。

3 機械運転単価コード

各施工歩掛内で使用しています。内訳については帳票の量が多くなるため出力していませんので、積算基準を確認してください。

積算基準の機械運転単価表に記載のある「機-〇〇」は、積算基準〔1 一般土木〕県版に適用単価表が記載されています。

SWKxxxxxxxx	積算基準において運転労務数量、燃料消費量および機械損料数量が指定されています。
SWMxxxxxxxx	積算基準〔4 下水道〕において運転労務数量、燃料消費量および機械損料数量が指定されています。
SKxxxxxxxx	運転労務数量、燃料消費量を積算基準〔5 建設機械損料〕により決定します。ただし、条件を個別設定する場合もあります。
SDHTxxxxxxxx (SZxxxx)	積算基準〔3 港湾〕において運転労務数量、燃料消費量および機械損料数量が指定されています。

4 その他コード

#0n	所定の率で雑材料の経費を計上しています。
#7n	単位数量当り単価の合計金額が有効数字4桁になるように所定の率以内で諸雑費計上する処理を行っています。
#80	単位数量当り単価の合計金額が有効数字4桁になるように端数を計上する処理を行っています。
+00	施工コードにおいて歩掛全体を割増す場合に用いるコードです。
Xn000	工事の場合は本工事、附帯工事、補償工事などの費目コード、委託の場合は測量、調査、設計などの業務コードです。nは1～4。
Yxxxxxxxx	新土木工事積算体系における工事工種のコードです。nは1～4工種レベル、zの場合は共通仮設工種。
Zxxxx	共通仮設費、現場管理費、一般管理費のコードです。
管理費区分	「0 省略」は設定無し、「1 桁等購入費」、「5 鋼橋門扉等工場原価」、「T 処分費」等は積算基準〔1 一般土木〕県版を参照してください。「N 直接人件費」、「N1 直接人件費(電子対象外)」については、7 業務委託の管理費区分を参照してください。

5 単価入力データ一覧表について

以下の①～⑤単価コードについては単価入力データ一覧表に関連情報※が記載されています。

同一コードでも異なる単価が入力されている場合がありますので、詳細は入札資料を参照してください。

①本表1 単価コードのその他に記載されている単価コード。

②単価コードに単価値が設定されておらず、積算者が単価を逐次入力した単価コード。

③代表機材規格および名称・規格の記載内容を修正（変更、追記）した単価コード。

④パッケージコード※において積算地区の代表機材規格を減額処理した単価コード。

⑤パッケージコード※において積算地区の代表機材規格を置換えした単価コード。

※関連情報とは、対象となる単価コードとその名称と単位、および、対象コードを使用している本工事費内訳表に記載のコード、名称、第番号です。

※パッケージコードとは施工コードのSCBxxxxxxxx, SCBSxxxxxxxx, SSHxxxxxxxxのことです。

6 パッケージコードの修正について

単価入力データ一覧表に記載されている単価コードを含むパッケージコードは修正となります。

修正した箇所には、施工内訳表の積算地区の代表機材規格の項目（例：Z1t'）に「修正」と記載されます。

詳細については施工内訳表および単価入力データ一覧表を参照してください。

※本表5の①～③に該当する単価コードであっても、施工条件の入力により単価値、名称、規格が変更された代表機材規格は対象外です。

※本表5の④の修正単価については、単価入力データ一覧表金額欄に「*減額処理*」と記載されます。

※本表5の⑤の修正単価については、単価入力データ一覧表金額欄に「*単価置換*」と記載されます。

7 業務委託の管理費区分

「N 直接人件費」は測量業務諸経費体系および設計業務諸経費体系での直接人件費を示します。詳細は積算基準〔2 調査関係〕を参照してください。

「N1 直接人件費(電子対象外)」は、電子成果品作成費を除く、全ての諸経費を対象とする費用です。

8 業務委託における電子成果品作成費の計上について

「総括情報表」記載の「電子成果品作成費計上」選択項目による、業務区分ごとの電子成果品作成費の計上方法は以下のとおりとなります。

詳細は積算基準〔2 調査関係〕を参照してください。

↓選択項目 \ 業務区分→	測量業務委託	一般調査業務	設計業務委託
00設計業務に率計上しない	測量業務積算基準	その他機械ボーリング関連	—
01詳細設計業務に率計上	測量業務積算基準	その他機械ボーリング関連	概略設計, 予備設計又は詳細設計
02その他の設計業務に率計上	測量業務積算基準	その他機械ボーリング関連	その他の設計業務
05率計上しない	—	—	—

9 パッケージコードにおける、標準単価及び東京単価適用日について

パッケージコードにおける、標準単価及び東京単価適用日については、単価適用日の「新潟県土木工事等基礎（公表）単価表」に記載の、新潟県土木工事等基礎（公表）単価表について、2. 掲載内容を参照してください。

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ **工事数量総括表**

頁0-0001

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊					
道路改良		式			
道路土工		式			
掘削工		m3			
掘削		一式			
掘削		m3		810	
土砂等運搬		一式			
土砂等運搬		m3		540	
路床盛土工		m3			
路床盛土		一式			
路床盛土		m3		340	
路床盛土		m3		150	
土砂等運搬		一式			
土砂等運搬		m3		540	
土材料		一式			
改良土		m3		480	
改良土		m3		480	
残土処理工		式			

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0002

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1・規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
土砂等運搬		一式			
土砂等運搬		m3		270	
残土等処分		一式			
残土等処分		m3		270	
排水構造物工		式			
作業土工		式			
床掘り		一式			
床掘り		m3		9	
埋戻し		一式			
埋戻し		m3		9	
基面整正		一式			
基面整正		m2		98	
側溝工		式			
自由勾配側溝		一式			
自由勾配側溝		m		37	
自由勾配側溝		m		32	
側溝蓋		一式			
蓋版		枚		62	

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0003

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
蓋版		枚		7	
L型側溝		一式			
基礎碎石		m2		18	
コンクリート		m3		3	
型枠		m2		6	
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ		m		23	
管渠工		式			
暗渠排水管		一式			
暗渠排水管		m		8	
鉄筋コンクリート台付管		一式			
鉄筋コンクリート台付管		m		15	
鉄筋コンクリート台付管		m		25	
集水柵・マンホール工		式			
現場打ち集水柵		一式			
集水柵(ｸﾞﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 蓋) (2)		基		3	
集水柵(ｸﾞﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 蓋) (2)		基		1	
集水柵(ｸﾞﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 蓋) (2)		基		4	
集水柵(ｸﾞﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 蓋) (2)		基		3	

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0004

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
構造物撤去工		式			
防護柵撤去工		式			
ガードケール撤去		一式			
鋼材切断工		m		15	
構造物取壊し工		式			
コンクリート構造物取壊		一式			
構造物とりこわし		m3		18	
構造物とりこわし		m3		23	
舗装版切断		一式			
舗装版切断		m		27	
舗装版切断		m		12	
舗装版切断		m		0.9	
舗装版破碎		一式			
舗装版破碎		m2		500	
排水構造物撤去工		式			
暗渠排水管撤去		一式			
暗渠排水管		m		5	
運搬処理工		式			

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0005

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など		規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
殻運搬			一式			
殻運搬			m3		25	
殻運搬			m3		18	
殻運搬			m3		23	
殻処分			一式			
処分費 (t)			t		59	
処分費 (t)			t		43	
処分費 (t)			t		59	
現場発生品運搬・処分			一式			
現場発生品運搬			回		1	
スラップ 控除			t		0.5	
スラップ 控除			t		0.4	
処分費			t		0.03	
取付け道路工			式			
掘削工			m3			
掘削			一式			
掘削			m3		6	
床掘り			一式			

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0006

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など		規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
床掘り			m3		3	
埋戻し			一式			
埋戻し			m3		3	
基面整正			一式			
基面整正			m2		6	
側溝工			式			
プレキャストU型側溝			一式			
U型側溝			m		5	
自由勾配側溝			一式			
自由勾配側溝			m		6	
側溝蓋			一式			
蓋版			枚		11	
蓋版			枚		5	
蓋版			枚		1	
管渠工			式			
暗渠排水管			一式			
暗渠排水管			m		0.4	
集水樹・マンホール工			式			

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0007

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
現場打ち集水桝		一式			
集水桝 (縞鋼板蓋)		基		1	
アスファルト舗装工		式			
下層路盤 (車・路)		一式			
下層路盤 (車道・路肩部)		m2		19	
附帯工		式			
支障物移転工		式			
標識移設工		一式			
標識移設		基		1	
舗装		式			
舗装工		式			
アスファルト舗装工		式			
下層路盤 (車・路)		一式			
下層路盤 (車道・路肩部)		m2		761	
透水性舗装工		式			
フィルター層		一式			
フィルター層		m2		165	
下層路盤 (歩)		一式			

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0008

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
下層路盤(歩道部)		m2		165	
アスファルト舗装工		式			
下層路盤(歩)		一式			
下層路盤(歩道部)		m2		40	
下層路盤(歩道部)		m2		57	
縁石工		式			
作業土工		式			
基面整正		一式			
基面整正		m2		48	
縁石工		式			
歩車道境界ブロック		一式			
歩車道境界ブロック		m		74	
地先境界ブロック		一式			
地先境界ブロック		m		84	
防護柵工		式			
防止柵工		式			
転落(横断)防止柵		一式			
防護柵(横断・転落防止柵)設置工		m		112	

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 工事数量総括表

頁0-0009

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

費目・工種明細など	規格 1 ・ 規格 2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
仮設工		式			
水替工		式			
ポンプ排水		一式			
据付・撤去工		現場		1	
ポンプ運転工		日			
交通管理工		式			
交通誘導警備員		一式			
交通誘導警備員B		人日		144.0	
直接工事費					
共通仮設費 (率分)					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費 (率分)					
現場管理費計					
工事原価					
工事原価計					
一般管理費等					
契約保証費					

＊ ＊本工事費＊ ＊
工事数量総括表

頁0-0010

仮設工における規格・数量は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。

[illegible]